

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100251		
法人名	株式会社ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい楚辺		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2丁目30番2号		
自己評価作成日	平成29年 8月25日	評価結果市町村受理日	平成29年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=4790100251-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成29年 9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の一つに「家庭的でぬくもりある環境を作ります」と掲げ、民家を改築し家庭的な雰囲気を残し、中庭から日差しを取り入れることで、その日の天気や四季を感じていただけるような環境作りを心掛けています。「職員自ら受けたいと思うケア」を常に念頭に置きながら、入居者様のこれまで営んできた生活の流れを大切に、個々の要望に添った支援ができるよう、日々のケアに取り組んでいます。又、認知症に特化したサービス事業所として、定期的な法人内研修の開催は勿論の事、外部研修へ積極的に参加したり、沖縄県認知症グループホーム協会への加入、資格取得制度を設け職員育成に力を入れています。認知症介護には地域の方の力も重要と考え「認知症サポーター養成講座」を行い、地域作りの取り組みも行っています。そして、那覇市ボランティアポイント制度を活用し、地域の方がゆんたくや、庭の清掃、楽器の演奏など役割を持っていただき、入居者様と地域の方が顔なじみの関係になり、地域に開かれた事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は市内の住宅街の一角にあり、2階建て一般住宅を事業所として活用し、内階段も改修することなく、2階の居室への行き来も、階段を昇り降りして生活しており家庭そのものである。理念は、「家庭的でぬくもり・個性を大事に」等、事業所が目指すサービスのあり方を端的に示しており、リスクよりも利用者本人が好きなように生活してもらえよう支援している。本人の意向を受け、入浴を寝る前に支援したり、事業所に立ち寄る猫をペットのようにかわいがり、毎日餌やりのための買い物支援をする等、利用者の意向やリズムに合わせた対応を行っている。地域の自治会やふれあいデイサービスとの関わり、食料品等の買出しに出かける等で交流している。事業所は地域の消防や銀行、自治会等とともに、災害地区としてのモデルとなっている。管理者は、地域ケア会議の一員として、地域の課題に取り組んでいる。5年程前から定期的に事業所新聞を発行し、100軒程にポスティングし情報を発信する中で椅子やテーブル、車椅子、お膳等、地域から提供される等、地域に根ざした交流が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念を共有しているが、意識しないと忘れがちになる為、毎日出入りする玄関の常に見える場所にある事で随時職員間で意識付けしている。来所される家族や外部の方にも見える場所に掲げている。実習生受け入れのオリエンテーションにも読み合わせで活用している。	理念の共有と実践については、「家庭的でぬくもり・個性を大事に」等、事業所が目指すサービスのあり方を端的に示している。例えば、2階一戸建住宅の内階段を日常的に昇り降りして生活したり、猫好きな利用者が事業所に立ち寄る猫をペットのようにかわいがり、毎日餌やりのための買い物支援等、利用者の意向やリズムに合わせた対応を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、週3回程度の地域のスーパーでの買い物で顔見知りになったり、地域近隣に事業所新聞を発行している。地域の方から物品を頂く事もあり施設で活用している。	事業所と地域とのつきあいについては、地域の自治会やふれあいデイサービスとの関わりや食料品等の買出しに出かける際に交流している。事業所は地域の消防や銀行、自治会等とともに、災害地区としてのモデルとなっている。管理者は、地域ケア会議の一員として、地域の課題に取り組んでいる。5年程前から定期的に事業所新聞を発行し、100軒程にポスティングし情報を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者や主任がキャラバンメイトの資格を持ち、地域や施設内での認知症サポーター養成講座を開催し地域作りのお手伝いに心掛けている。また、認知症の人と家族の会の世話人として、介護家族の相談、支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月一度運営推進会議を開催。今年度より有識者として近隣のグループホーム職員にも参加して頂き情報交換している。その際、他施設の取り組みや良い点等を参考にし、ミーティングで職員と共有、改善に努めている。	運営推進会議を活かした取り組みについては、利用者や家族、行政、地域包括支援センター、知見者、民生委員が参加し、2か月に1回定期的に開催している。会議では、利用者状況や事故報告等が行なわれ、意見交換している。外部評価結果や議事録も公表されている。地域代表である民生委員の参加は1回であり、参加可能な工夫が期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議による市担当者への状況報告や、管理者是那覇市グループホーム連絡会の代表として、担当者とともに連絡調整を行っている。また、那覇市からの認知症サポーター養成講座の依頼を受けたり、圏域の包括支援センターの地域ケア会議への参加などで、地域作りにおいても協力ができるよ関係構築を図っている。	市町村との連携については、運営推進会議の中で行政担当や地域包括支援センターと情報交換している。利用者支援として保護課へ出向いたり、事業立上げや加算等について、担当課に相談している。管理者は、市グループホーム連絡会を立上げ、2か月に1回開催し行政も参加し交流している。行政や地域包括支援センターから依頼を受け、認知症サポーター養成講座の講師を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年一度は必ず身体拘束についての社内研修を行い職員育成を行っている。また、玄関は施錠しない、家族や関係者も出入りしやすい環境を作り、個人の要望に応え、外出や買い物、美容室等へも出かけている。ケアで不安に思う事は、職員間、管理者を含め話し合い身体拘束の無いケアを実施している。	身体拘束をしないケアの実践については、毎年身体拘束に関する事業所内研修を実施し、拘束のないケアを実践している。夜間でも2階への階段は自由に行き来し過ごしている。居室はコール設備され、頻繁にコールする利用者にも、その都度支援している。転倒リスク者は、ベッドサイドにマットを敷いて対応し、リスクについては、家族に説明し理解を得ている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年一度は社内研修にて、虐待についての勉強会を行っている。学んだ事は日々にケアに活かす支援を心がけている。身体的のみならず、言葉の虐待についても学び、虐待防止に努めている。	虐待の防止の徹底については、毎年法人や事業所で研修を実施し、“かわいい”等の言葉かけについても話し合われている。虐待に関するニーズ等は、申し送りの場で職員に知らせ注意喚起に努めている。日々のケアにおいては、利用者と職員との相性に配慮し、例えば、相性のよい職員が入浴支援することで利用者が笑顔で過ごせるよう、適切なケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一度は社内研修にて権利擁護について学ぶ機会を持っている。制度を利用されている方は、後見人や社協との連絡は密に取り、情報提供をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご家族に理解して頂けるように説明し、同意を得て契約。後にトラブルにならないよう、料金や今後のリスク、重度化や看取りの対応方針の説明も行っている。制度改正時も同様に対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や担当者会議、行事参加時や日頃の面会時に関わる機会があるので、その都度情報提供しながら意見も聞いている。必要な支援はケアプランに取り入れてケアに繋げている。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、日頃の生活場面や家族訪問時に意見や要望等を聞くよう努めている。利用者からクーラーの風があたりとの意見があり、居室ベッドの配置換えをしたり、夜間トイレまで行くのは難しいのでポータブルを入れてほしいとの要望に対応している。家族と一緒に毎月外食する利用者もいる。家族意見を幅広く聞き取る工夫を期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、個人面談の時間を設けて意見を細かく聞けるようにしている。人事考課も行い意見を聞ける場を広げ、必要な改善点があれば取り組んでいる。	運営に関する職員意見の反映については、ミーティングや個人面談等において聞く機会とし、職員が意見を言いやすい環境づくりを意識している。具体的には、休憩時間の確保に関する意見に対し、地域交流室を利用したり、入浴は日勤者の担当であったが、勤務者全員での対応に変更している。勤務調整等も行いやすい環境であり、職員の希望する研修への参加も行われている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員登用、役職手当、有資格者手当、資格合格時に受験料支給、資格取得に向けての助成金支給、適宜昇給もあり、向上心を持って仕事に挑める環境整備がある。	就業環境の整備については、法人の方針として資格等受験費用や資格手当を支給するとともに、内外の研修参加等についても勤務時間とし、時間外手当等に対応している。ワークライフバランスとして、職員が継続して働けるよう育児休暇や介護休暇もきちんと取得できる環境である。健康診断は年2回実施し、職員の健康面への気配りもしている。職員が信頼のおける新職員を紹介する独自の紹介制度を設けている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が全員参加出来るよう各事業所のミーティング内で勉強会、職員一人一人に講師役を割り振る事で伝える側の学びにもなっている。社外研修にも積極的に参加出来るよう、シフト調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一社)沖縄県認知症グループホーム協会へ加盟し、協会主催の管理者会議や、計画作成者研修、介護職員研修へ積極的に職員参加し、他事業所との意見交換を行っている。管理者は那覇市グループホーム連絡会の代表として、他事業所や連携を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった際は、必ずご本人に会い、真摯に耳を傾け、ご希望に沿ったサービスの提供に心がけ、安心してご利用いただけるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談があった際には当ホームの見学を勧めている。そこで今困っていることや入所した際に出来ることや、今必要なサービスを話し合いご本人にあったケアをご家族と一緒に考えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族様が今困っていることや要望、不安に思っていることなどに耳を傾け他のサービスも含め、その時のニーズに合わせた対応が出来るよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤した際には「ただいま」「おかえり」と職員も家へ帰ってくる気持ちで共に過ごす生活の場作りを心がけている。又、洗濯物たたみや食器拭き、配膳等出来るところをお願いして日常の中に役割を持っていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会の際には、ご本人の状態報告を行い、入居者様にとっての最善のケアが行えるような協力関係を作れるよう努めている。又、ホームの周年祭や花火大会、大掃除への参加を呼びかけお手伝い頂いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年通っている理容店へ職員と出かけたり、お盆には今まで住んでいたお家へ一時帰宅出来るようご家族と協力し送迎等を行ったり、希望があった際には個別活動の時間を利用して出かけられるよう支援している。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、利用者本人や家族から馴染みの場所や行きたい場所を聞いている。5年前から年2回程地域の美容室へ定期的に出かけている利用者や全盲利用者の出身地に出かけ、肌で地元を感じてもらえるよう個別支援を行っている。6年前から年1回程知人が訪問し交流したり、地域の祭りに継続的に出かけている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所内外の行事等に参加していただくことで入居者同士の交流がしやすい雰囲気を作っている。又、他者との関わりが苦手な方には個別で支援を行い出かける機会やイベントを一緒に考え参加出来る機会づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご家族様から相談があった際には必要に応じて支援や話し合いの場を設け、ご家族様との関係を切らない、開かれた事業所づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人好みの食事内容や時間で提供や、入りたい時間や方法での入浴支援、やりたい事と一緒に出来る事を見出し、個別活動の時間も設けている。自発的発言が難しい方には、何か出来る事はないか職員間で情報共有しながら支援をし、仕草や動き、表情等を読み取るようにしている。	思いや意向の把握については、日頃の生活の場で利用者の話す言葉や態度、表情等で把握に努めている。例えば、利用者の希望により朝食のパンをご飯に変更したり、寝る前の20時頃に入浴支援を行う利用者もいる。本人から「○○ちゃん」と呼んでとの希望もある。もらい物のイカを焼きイカにし、利用者へ勧めたところ喜ばれたので、本人の好みとわかり、その後イカを買って、イカ焼きを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話や家族からの今までの暮らししてきた環境等が聞けた時は、これからの生活環境作りのヒントになる。その都度情報共有し、望む暮らしへの支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の活動をよく観察し、毎日の介護記録に記載。出来る事はご自身で行って頂けるよう、定期的なカンファレンスで個々の残存機能の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりに担当職員を設け、定期的にモニタリングい、職員全員で検討している。担当者会議にはご本人の参加も集い意見を伺っている。日々のケアに反映されるよう、日々の介護記録にプランチェック項目を置き、共通の支援が行えるよう努めている。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、月末にカンファレンスを実施し、利用者も参加する中で職員皆で確認し合っている。更新時や必要時等は、家族も参加している。モニタリングは3か月毎に担当職員が聞き取り作成し、計画作成担当者が最終チェックを行っている。介護計画は6年前から3か月毎に見直しを行い作成している。介護計画に沿った支援内容は、介護記録としてチェック方式で行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は1日分の介護記録、定期的なカンファレンスを通じて、一人ひとりの心身の状態や残存機能の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに沿った外出支援の柔軟な対応や、受診対応の調整をご家族と行い、難しい場合は職員対応にて経過を面会時や電話、手紙を郵送する等して情報提供をしている。今後はグループホーム入居前に馴染みの関係を作り、安心して入居ができるよう、共用型デイサービスの指定も予定している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定例の運営推進会議な場では、包括、家族、役所職員、ボランティアの方に声かけして参加して頂いている。社協の方や保護課からの定期的面会もあり、ご本人の状態を把握して頂けるよう情報提供して繋がっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携しているクリニックでの月2回定期往診や、継続して通院している病院受診など希望に沿った支援を行っている。訪問診療では24時間対応してもらえ、必要に応じ指示・助言を頂き、受診が必要と判断があれば迅速に情報提供書を発行してもらい、外部受診している。	かかりつけ医の受診支援については、家族対応でこれまでのかかりつけ医を受診したり、協力医による月2回の訪問診療を職員対応で支援している。受診時の情報交換は、担当職員により服薬状況等を記した文書で行い、受診後は家族の面会時等に結果を伝えている。他科受診対応や訪問看護を利用した支援も行なっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションに委託し、毎週訪問対応してもらうことで、細かい皮膚状態や薬の確認、心身の状態を介護職と連携して状態把握が出来る。緊急時も24時間電話対応可能なため、介護職員では判断しにくい場合も助言を頂ける。訪問時には報告書も記載し、情報の共有に努め、変化があれば早期に適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と協力医療機関との情報提供にて、迅速に対応するようになっている。入院から退院まで細めに連絡を取り合い、状態安定にて早期に退院して元の生活、ADLやQOLの維持が出来るよう支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向を伺い、事業所でも終末期のケアができる旨を伝えている。施設で過ごしていく中でも状態の変化に応じて、今後の重度化やリスク、終末期のあり方を事前に説明し、ケアの方針をご本人や家族や担当医と一緒に考えている。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を作成し、利用開始時に家族に説明し同意を得ている。利用者の状態変化に応じて関係者が話し合い、対応方針を共有し、過去に看取りの実績がある。事業所は、訪問診療や訪問看護と連携すると共に看取りケアの研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて、緊急時対応や事故発生時の処置や予防のリスクマネジメントを勉強している。年1回職員全員参加で救急救命法を実技で学ぶのを徹底し、常にシミュレーションして業務に挑むよう心がけている。高齢者に多い疾患や看取りに関する内容を含めた勉強会も行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間を想定した地震や火災の総合訓練を年2回以上行い、新しく入社した職員にも必ず参加して訓練を行っている。ボランティアの方にも呼びかけての参加も出来ている。訓練後に話し合いを設け、行っの気付きの点や今個必要な反省点を出し報告書作成し、今後の対策に活用している。	災害対策については、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しているが、地域住民の参加協力は得られていない。訓練後は、避難に要した時間や施設環境の課題等を検証している。防災設備の整備点検や消防署立ち入り検査の指摘事項も改善している。災害(火災・地震・台風)の対応マニュアルを整備し、3日分の備蓄も確保している。	災害発生時に利用者が安全に避難できるよう地域との協力体制を築き、地域住民が訓練に参加してもらえる取り組みが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的なカンファレンスや日々の申し送りで入居者様の身体的特徴・性格・日頃の発言などを職員間で共有し、心身に配慮した言葉かけを心がけている。入浴に関しても同性介助で支援できるよう出来るだけ努めている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、年間計画に接遇研修を位置づけて実施し、職員による不適切な対応や言葉遣いが見られる場合は、直接注意し会議でも周知している。利用者ができる事はしてもらい、一人ひとりのペースを尊重した支援に努め、誕生日は当日に祝っている。事業所日より等への写真掲載は、同意を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員へ希望が伝えられるような環境にすべく日頃から声かけや傾聴を何気なく行い、入居者様本人が思いを伝えられ・表現し、自己決定のしやすい支援を行うよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自己決定に沿った支援が行えるよう一人々のペースに合わせ自分らしく暮らせるよう働きかけている。入浴や食事なども時間を決めずに、ご本人の要望に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え支援の際には、ご本人にその都度どれを着たいか選んでもらったり、職員が考えてコーディネートでおしゃれができるよう支援している。又、行きつけの美容室でのカット・染髪も継続できるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りの際には、食べたい物を聞いてメニューに取り入れたり、食事準備、料理の下ごしらえ、食器拭き等を一緒に行って下さる。職員も一緒に同じ食事を食べ、食事時間を共に過ごしコミュニケーションの場になっている。	食事を楽しむことのできる支援については、朝と夕食を事業所で調理し、昼は法人からの配食を利用している。利用者は、食材の買い物や下ごしらえ、盛り付け等に参加し、毎週火曜日はおやつ作りを行っている。食事の席は利用者の相性に配慮し、食事時間も希望に沿って対応し、ご飯とパンを選択できるよう常備している。職員も同じものを一緒に摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による昼食提供、朝夕は職員によって入居者の好みに応じ、かつ栄養のバランスの取れたメニューを提供している。食事量や水分量の少ない方へは、お好みの菓子パンや好きな物を食べてもらい、水分もジュースやゼリーなどを飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいは、ご本人で歯磨きの出来る方には声掛けによる誘導、自立での歯磨きが困難な方に関しては職員による口腔ケア介助で行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、ご本人からの訴えだけでなく、言動・仕草などから察知し、個々の排泄パターンを把握できるよう介護記録等で常に確認している。日中は通常の布下着あるいは布下着に尿取りパットを用いつつ、トイレ誘導による排泄の自立を促す支援を常時おこなっている。	排泄の自立支援については、排泄記録を活用し、利用者のサインや習慣等、排泄パターンを把握し、日中は殆どの利用者にトイレでの排泄を支援している。夜間は安眠に配慮し、希望者にリハビリパンツやパットで対応している。全盲の利用者は、動線に沿ってポータブルトイレを配置し、自身で排泄できるよう支援し、介護計画に清掃も位置づけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前と午後の2回、ゆったりとした雰囲気の中好みの飲み物を提供することで、水分の補給が行えるよう努めている。腸内環境を整えるため乳酸菌飲料を定期的に提供するなどして便秘予防あるいは改善に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に沿って入浴支援するよう心がけており、特に時間は設けず、自由になっている。同性介助などでご本人の要望に合わせた支援をすることで安心して心地よい時間を過ごして頂けるよう努めている。	入浴を楽しむことができる支援については、起床時や就寝前等の時間帯や毎日の入浴等、利用者の希望に合わせて支援している。入浴時は羞恥心に配慮し、体をタオルで覆い、同性介助を基本とした対応に努めている。入浴を拒む利用者には、成功事例から、声かけのタイミングや希望の職員が対応する等、工夫し支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を入居者様の生活リズムで過ごして頂き、それぞれが眠くなった時間に睡眠を促したり居室へ誘導を行っている。眠剤の使用を極力控え、できるだけ自然な形で就寝できるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師との連携によって処方薬の薬効や副作用、その他留意すべき点をきちんと把握したうえで服薬支援を行い、各入居者様の状態の変化にすぐ気付けるように努めている。また、薬剤師からの管理指導計画を受けており、指導や助言も受けられている。	服薬支援については、受診時に主治医と薬剤師が情報共有システムで連携し、薬剤師が薬を届けている。職員は、服薬の効能等を説明した処方箋ファイルやお薬手帳でも確認できるようにし、薬の変更時は申し送りで情報を共有している。服薬管理マニュアルを作成し、薬剤師による服薬研修も実施しているが、誤薬等の報告もあり安全な服薬支援へ更なる取り組みに期待したい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	DVD鑑賞・折り紙・喫煙・買い物・ドライブなど入居者様の要望、生活歴に応じて気分転換ができるよう努めている。また、毎週火曜日にはおやつレクを取り入れる等の工夫をしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から希望があれば、買い物や理容室への同行したり、ご家族様と相談しお盆の時期には一時帰宅できるよう送迎や付き添いを行っている。	日常的な外出支援については、利用者は、日常的に職員と一緒に買い物に出かける他、中庭で外気浴を行っている。毎月、外出を計画し、初詣や花見等の季節毎の外出や天ぷらやアイスデーと称したドライブの他、「沖縄そば屋」で昼食をする等、気分転換を図っている。個別には、美容室利用や旧盆時の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	目の不自由な方にもご家族と相談し、お金を持つ楽しみや、安心感を得ていただけるよう支援している。又、ご自分で出かけられる入居者様には買い物外出の付き添いを行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 1日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は自由に行って頂き電話利用困難な方には職員が出来ないところの支援を行っている。県外にご家族が居る方には定期的に手紙で状態のや活動の報告をしている。又、正月には年賀状を作成し御家族様宛に送っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には折り紙や切り絵を入居者様と一緒にボードに貼り季節を感じていただけるよう支援している。又、一般住宅の特徴を活かし、庭からの光や風を程よく感じていただけるよう環境を整えている。食堂のテーブルの位置を利用者様の意に沿って配置を変えて工夫したりしています。	居心地のよい共用空間づくりについては、玄関には、季節の飾りが施され、靴の着脱がしやすいよう椅子を設置している。居間や食堂は中庭に面し、濡れ縁も設置され利用者が自由に出入りし、猫の世話や外気浴等ができるようになっていいる。食堂兼居間は1階にあり、ソファや椅子等を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア一部分には一人掛けや二人掛けのソファを配置しお好きな場所に座って頂きテレビや新聞を読んだり思い思いに過ごしていただけるようにしている。又、食堂のテーブルの位置を入居者様の関係性に沿って配置を変えて工夫している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からのプレゼントのヌイグルミやクッション、元々住んでいた家から持ってきていただいた写真や仏壇、本などを置いて、快適で安心して過ごしていただけるような居室作りをご本人やご家族と相談して行っている。	居室は、ベッドやタンス、クーラーが備えつけられ、利用者は、仏壇や写真、家具類等を持ち込み動線に合わせて配置している。認知症の特性に配慮した居室づくりやこだわりの品等で装飾した居室もある。利用者の意思でカーテンを閉めることなく、常に開けたままの居室があり、近隣からの視界防止策としての工夫が望まれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や廊下に手すりを取り付けご自分で歩ける方に利用して頂いている。又、動線にモノを置かないよう日頃から椅子の位置やテーブルの位置を工夫している。一般住宅を活かし、段差や階段を残すことで、日常の中で生活リハビリができるよう働きかけている。		

(別紙4(2))

事業所名 :グループホームふれあい楚辺

作成日 : 平成 29 年 11 月 3 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	周辺の道路状況や2階建ての構造から、災害時には万全の対応が求められる。職員の意識の向上地域住民やボランティアの避難訓練への参加を呼びかけ、避難経路等の意識づけや徹底が急務である。	①地域の方々に避難訓練に参加していただけるよう働きかける。 ②楚辺地域の地形や問題点などに考慮した避難ルートの構築。	①現在年2回開催している避難訓練の地域住民、ボランティアへ呼びかけや広報誌等を利用した周知活動を行う。 ②実際に事業所の周りや避難予定地へ利用者を連れて下見を行い実際に逃げる際の問題点を探す。	①6ヶ月 ②6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。